

四つの季節の鉄道ものがたり 冬

はじめての「みんなてつ」

辻村深月

私が人生で最初に乗った「みんなてつ」はなんだろうと考えると、きつと富士急行だ。私だけでなく、きつと山梨県の子どもの多くがそうだ。

JRの大月駅から乗り換える富士急行は、その名の通り富士山の周辺——湖に山の姿を映す「逆さ富士」が見られることでも有名な「河口湖」の駅や遊園地の「富士急ハイランド駅」、あとはその名も「富士山駅」に続いている。

富士急ハイランドは、山梨県内の小学生たちにとっては馴染み深い場所だ。といっても、私の場合、絶叫マシーンや世界最長のお化け屋敷に行けたわけではなく、園内のスケートリ

ンクで学校行事のスケート教室があったため。リンクを滑る頭上をゴォーとすさまじい音を立ててジェットコースターが過ぎ去り、そこからキャー！と悲鳴が落ちてくる。小学校時代の私たちに共通の、冬の思い出。

学校のスケート教室ではバスに乗ったけれど、そんな私たちが富士急行に乗る最初。それが小学校の卒業旅行。だった。学校の行事ではなく、子どもたち数人だけである特別なお出かけ。山梨に住む私たちが行先に選ぶのは、ダントツで富士急ハイランドだった。スケート教室の時は乗れなかったジェットコースターやお化け屋敷に行ける。しかも、引率なしの、同じ年の

友達だけで。

一日だけのイベントは、厳密には「卒業遠足」と言った方が近いのかもしれないが、大人にお小遣いをもらって子どもたちだけで出かける高揚感、卒業旅行の大人びた響きの方は、卒業旅行の大人びた響きの方がしつくりきた。学校最寄りの石和温泉駅から上りの電車に乗り「大月で乗り換えだよね」と囁き合う。

楽しくて、楽しくて、夢中でおしゃべりする車中、ひとりがふつと顔を上げ、「富士山だ！」と呟いた。その言葉を合図にみんなが一斉に窓に貼りつく。「富士山だ！」「本当だ、富士山だ！」と身を乗り出す。「大きい」でも「きれい」でもなく、ただただ「富



イラスト・岡林玲

みんな

CONTENTS
Vol.
64
2018

◎日本民営鉄道協会とは？
昭和42年に社団法人として設立、平成24年4月1日付で一般社団法人に移行、72社の民営鉄道会社で組織されています。
輸送力の増強と安全輸送の確保を促進し、鉄道事業の健全な発達を図り、もって国民経済の発展に寄与することを目的とした活動を行っております。
なお、JR各社や公営地下鉄などは加入していません。

14 TOPICS
新宿線の沿線価値向上に向けて。
●西武鉄道株式会社 鉄道本部 建設部 建設課 課長 山田光明

30 連載④ 大正・昭和の鳥瞰図絵師 吉田初三郎の世界
●首都大学東京非常勤講師 藤本一美

08 REPORT.1
「西武らしさ」を実現する。
●西武鉄道株式会社 鉄道本部 計画管理部 管理課長 安孫子学
●西武鉄道株式会社 鉄道本部 車両部 車両課長 山下和彦
●西武鉄道株式会社 鉄道本部 運輸部 スマイル&スマイル室 課長 林大輔

28 連載③ 地方民鉄紀行
●相模女子大学 人間社会学部社会マネジメント学科 教授 湧口清隆

04 TOP INTERVIEW
沿線の宝を掘り起こし、利用者満足度のさらなる向上を。
●西武鉄道株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 若林久

24 基調報告①④
観光列車、有料着席列車の経済学
●相模女子大学 人間社会学部社会マネジメント学科 教授 湧口清隆

特集／通勤も観光もー新たな輸送需要の開拓
「利用者満足度の向上へ。西武鉄道の取り組み」
●西武鉄道株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 若林久

22 CLOSE UP
地元と一体となって秩父の魅力発信。
●秩父鉄道株式会社 執行役員 企画部長 坂本昌己

02 ●作家 辻村深月
四つの季節の鉄道ものがたり 冬
はじめての「みんてつ」

16 REPORT. II
レストラン列車で秩父のブランド力を高める。
●西武鉄道株式会社 鉄道本部 運輸部 スマイル&スマイル室 旅客誘致企画担当 主任 川崎範雄
●西武秩父駅前温泉 祭の湯 支配人 加藤治
●一般社団法人 秩父地域おもてなし観光公社 地域マネージャー 保泉友美

士山だ」と口にするのでしか表現できない感動。ああ、楽しいな、と思つたら、涙が出そうになった。
今も、東京から故郷の町に帰省する時、途中の大月駅で降りる人たちを見ると、ふと、顔を上げて、彼らの背中を見てしまう。これから富士山に登るのかな、という大きな荷物を抱えた人がやはり多い。本格的な登山リュックを背負った外国人の姿も増え、彼らの会話から聞こえる「Fuji」という

言葉を聞くと、自分が行くわけでもないのに胸が弾む。春休みのシーズンになると、今度は子どもたち数人のグループが笑いあっている。卒業旅行らしき一団も。
その人たちの背中にそっと「きつと楽しいですよ」と心の中で話しかける。私が初めて乗った「みんてつ」の感動と同じものが彼らの中にも残りますように、と、余計なお世話と知りつつ、祈る。

つじむらみづき
作家。山梨県出身。2004年『冷たい校舎の時は止まる』で第31回メフィスト賞を受賞しデビュー。11年『ツナグ』で第32回吉川英治文学新人賞、12年『鍵のない夢を見る』で第147回直木三十五賞を受賞。著書に『子どもたちは夜と遊ぶ』『凍りのくじら』『ぼくのメジャースプーン』『スロウハイツの神様』『ゼロ、ハチ、ゼロ、ナナ。』『鳥はぼくらと』『家族シスター』『朝が来る』など。近著に『クローバーナイト』『がみの孤城』がある。

